

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月14日
【四半期会計期間】	第117期第1四半期（自平成25年2月1日至平成25年4月30日）
【会社名】	株式会社ナイガイ
【英訳名】	NAIGAI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 泉 潔
【本店の所在の場所】	東京都台東区柳橋二丁目19番6号
【電話番号】	東京(03)5822 - 3810
【事務連絡者氏名】	取締役管理部門担当 市原 聡
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区柳橋二丁目19番6号
【電話番号】	東京(03)5822 - 3810
【事務連絡者氏名】	取締役管理部門担当 市原 聡
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第116期 第1四半期連結 累計期間	第117期 第1四半期連結 累計期間	第116期
会計期間	自平成24年 2月1日 至平成24年 4月30日	自平成25年 2月1日 至平成25年 4月30日	自平成24年 2月1日 至平成25年 1月31日
売上高(百万円)	3,774	3,646	17,342
経常利益又は経常損失( ) (百万円)	93	67	129
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失( )(百万円)	85	79	105
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	167	512	399
純資産額(百万円)	7,076	8,235	7,722
総資産額(百万円)	13,352	14,060	13,177
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額( ) (円)	1.15	0.96	1.43
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額(円)			
自己資本比率(%)	52.9	58.4	58.4

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式がないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

- (1) 当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある新たな事項は発生していません。
- (2) 前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)経営成績に関する分析

当第1四半期連結累計期間の我が国経済は、アベノミクスへの期待感から、輸出企業を中心に改善の兆しも見られ、4月に発表された日銀による異次元金融緩和などを受け、さらに円安、株高が進んだことなどもあり、国内景気は緩やかに上昇するとの予測も出てきました。しかしながら、個人消費につきましては、一部では株価上昇による資産効果や景気回復への期待感による消費マインドの好転を背景に、上質な商品・サービスを求める傾向が強まり、高額品消費を中心に回復の兆しを見せるものの、全般的には、生活者実感としての景気回復感の浸透には及ばず、依然慎重な購買姿勢が続いております。

衣料品業界におきましても、百貨店を中心に一部では回復傾向は見られるものの、月度の市況については、天候に左右されるなど不安定な推移となりました。

こうした中、当社グループは、先に公表いたしました第2次中期経営計画の重点施策に基づき、持続的な成長に向けた基盤づくりを目指し、実務者レベルでの新たに施策実行プロジェクトを立ち上げ、マーケティング機能の強化、新ブランド開発、紳士レッグ&インナー事業の強化、ネット通販事業の拡大、SCMの効率改善など、増収、増益に向けた取り組みを開始いたしました。

しかしながら、当第1四半期連結累計期間につきましては、通信販売はテレビ通販、インターネット通販ともに概ね計画通りの販売で順調に推移した一方で、主力の卸売り事業では、レッグウェアの春物新商品の販売はほぼ計画通り進捗できたものの、秋冬商品の返品が計画を大きく上回ったことに加え、新規に展開を開始した紳士アンダーウェアでも、店頭在庫入れ替えの遅れなどから投入実績が計画に届かず、全体では当初計画を下回る販売となりました。また、上記の計画乖離に加え、既に織り込み済みではありますが、為替相場が前年同期に対して大幅な円安に振れたことによる、海外生産商品の仕入原価上昇もあり、連結営業損益は前年を大きく下回る状況となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,646百万円（前年同期比3.4%減）、営業損失は136百万円（前年同期比212百万円の減益）、経常損失は為替予約評価による差益を加え67百万円（前年同期比161百万円の減益）、四半期純損失は79百万円（前年同期比164百万円の減益）となりました。

セグメント別の業績概要は以下の通りです。

#### (卸売り事業)

卸売り事業の主体であるレッグウェア事業では、百貨店販路は紳士靴下、婦人靴下ともに、店頭のプロパー販売が、2月は天候不順の影響もあり、セール先行となりましたが、3月以降は概ね前年を上回るペースで好調に推移したものの、卸売り販売については、返品増加と紳士肌着の投入減もあり厳しい結果となりました。商品動向では、紳士靴下は新ブランド「タケオキクチ」が好調に牽引したほか、アイテム的にはショートソックス、ペッツシリーズが売れ筋に浮上、婦人パスト及び靴下では、パストがオケーション需要に伴い立ち上がりから好調に推移し、4月に入ってからブランドソックスがカジュアルアイテム中心に売上を伸ばしました。

量販店販路については、店頭販売は全般的に盛り上がりには欠け、前年レベルを上下する推移となり、卸売りでも、店頭不振の影響から、主力のPB商品、定番商品の追加投入が遅れ、当初見込を若干下回る状況となりました。商品動向については、婦人フットカバー、子供の「プーマ」スポーツソックスは好調に推移しましたが、紳士ビジネスソックス、婦人定番アイテムは動きが鈍く苦戦しました。

その他卸売り事業の株式会社NAP、ロンデックス、OEM、輸出、海外子会社の各事業については概ね計画通りの進捗で推移しました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間での卸売り事業全体の売上高は、返品増加等の影響もあり2,880百万円（前年同期比1.1%減）、営業損失は、円安による海外生産品の原価上昇なども影響し134百万円（前年同期比217百万円の減益）となりました。

(通信販売事業)

第2次中期経営計画での強化セグメントとなる通信販売事業につきましては、株式会社ナイガイ・イムが、主力のテレビショッピングで既存ブランド、新ブランドともに順調な滑り出しとなり、プロパー放映でも計画を上回る販売消化率を達成し復調の推移となったものの、WEBで展開するショッピングサイト、イムネットの販売が伸び悩み苦戦を強いられたことなどから、チャンネル全体での売上高は当初見込を若干下回る進捗となりました。営業利益につきましては、好調なテレビ販売が寄与し当初計画を上回る結果となりました。

インターネットショッピングを展開するセンチーレワン株式会社は、新生活や母の日などの季節需要を取り込み、主力のバッグ楽天モールの売上が大きく伸長した他、レグウェアを展開するグラナージュでも定番の着圧系機能ソックスや冷え取り重ね履きシルクソックスが好調に売上を伸ばすことができ、さらにネットモールの催事で購買成約率を増加させたことなども寄与して前年を大きく上回る増収、増益となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間での通信販売事業全体の売上高は815百万円（前年同期比8.5%減）、営業損失は2百万円（前年同期比3百万円の増益）となりました。

(2)財政状態に関する分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に対して883百万円増加し、14,060百万円となりました。流動資産では、現金及び預金が475百万円、受取手形及び売掛金が363百万円減少し、商品及び製品が969百万円増加しました。固定資産では、投資有価証券が時価の上昇により751百万円増加しました。

負債は、前連結会計年度末に対して370百万円増加し、5,825百万円となりました。支払手形及び買掛金が563百万円増加し、短期借入金が236百万円、返品調整引当金が112百万円減少しました。

純資産につきましては、四半期純損失79百万円とその他有価証券評価差額金の増加546百万円等により、前連結会計年度末に対して512百万円増加し、8,235百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末と同様の58.4%となりました。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4)研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	278,000,000
計	278,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年4月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年6月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	82,172,815	82,172,815	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	82,172,815	82,172,815	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年2月1日～ 平成25年4月30日	-	82,172,815	-	7,691	-	1,997

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成25年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 125,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 81,405,000	81,405	-
単元未満株式	普通株式 642,815	-	-
発行済株式総数	82,172,815	-	-
総株主の議決権	-	81,405	-

【自己株式等】

平成25年4月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ナイガイ	東京都台東区柳橋二丁目19番6号	5,000	-	5,000	0.00
株式会社ウメダニット	新潟県五泉市今泉137	120,000	-	120,000	0.14
計	-	125,000	-	125,000	0.15

2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年2月1日から平成25年4月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年2月1日から平成25年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年4月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,835	3,360
受取手形及び売掛金	3,147	2,783
商品及び製品	2,764	3,733
仕掛品	10	23
原材料及び貯蔵品	74	79
その他	392	346
貸倒引当金	27	30
流動資産合計	10,197	10,296
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	50	48
土地	66	74
その他(純額)	128	134
有形固定資産合計	245	256
<b>無形固定資産</b>	357	375
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2,169	2,921
その他	249	242
貸倒引当金	42	32
投資その他の資産合計	2,376	3,132
固定資産合計	2,979	3,764
資産合計	13,177	14,060

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,785	2,348
短期借入金	1,196	960
未払法人税等	33	21
賞与引当金	31	63
返品調整引当金	331	219
その他	663	588
流動負債合計	4,041	4,201
固定負債		
長期借入金	250	230
退職給付引当金	983	1,009
繰延税金負債	145	348
その他	34	34
固定負債合計	1,413	1,623
負債合計	5,454	5,825
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,691	7,691
資本剰余金	6,782	6,782
利益剰余金	6,980	7,060
自己株式	6	6
株主資本合計	7,487	7,407
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	223	769
為替換算調整勘定	7	35
その他の包括利益累計額合計	216	805
少数株主持分	18	21
純資産合計	7,722	8,235
負債純資産合計	13,177	14,060

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年4月30日)
売上高	3,774	3,646
売上原価	2,279	2,286
売上総利益	1,494	1,359
販売費及び一般管理費	1,418	1,496
営業利益又は営業損失( )	75	136
営業外収益		
受取利息	0	0
為替差益	25	65
持分法による投資利益	-	2
その他	9	10
営業外収益合計	35	79
営業外費用		
支払利息	10	8
持分法による投資損失	4	-
その他	2	2
営業外費用合計	17	10
経常利益又は経常損失( )	93	67
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	93	67
法人税、住民税及び事業税	7	10
法人税等調整額	0	0
法人税等合計	7	10
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	85	78
少数株主利益	0	1
四半期純利益又は四半期純損失( )	85	79

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年4月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	85	78
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	56	519
為替換算調整勘定	19	44
持分法適用会社に対する持分相当額	5	26
その他の包括利益合計	81	590
四半期包括利益	167	512
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	166	510
少数株主に係る四半期包括利益	1	2

【会計方針の変更】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成25年2月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、これによる当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年4月30日)
減価償却費	8百万円	29百万円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年2月1日至平成24年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	卸売り事業	通信販売 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,883	890	3,774	-	3,774
セグメント間の内部売上高又は 振替高	29	-	29	29	-
計	2,912	890	3,803	29	3,774
セグメント利益又は損失( )	82	6	75	0	75

(注)1. 調整額はセグメント間の取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年2月1日至平成25年4月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	卸売り事業	通信販売 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,830	815	3,646	-	3,646
セグメント間の内部売上高又は 振替高	49	-	49	49	-
計	2,880	815	3,695	49	3,646
セグメント利益又は損失( )	134	2	137	0	136

(注)1. 調整額はセグメント間の取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年4月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額( )	1円15銭	0円96銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額( ) (百万円)	85	79
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は普通株式 に係る四半期純損失金額( )(百万円)	85	79
普通株式の期中平均株式数(株)	74,005,157	82,137,619

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年6月11日

株式会社ナイガイ  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 努 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小林 弘幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ナイガイの平成25年2月1日から平成26年1月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年2月1日から平成25年4月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年2月1日から平成25年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ナイガイ及び連結子会社の平成25年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。